

「ジェンダー」に思いを巡らせる

「ジェンダー」とは、社会的・文化的につくられた性のことをいいます。場合によっては、「女性・男性はこうあるべきだ」と思い込んでいたり、周囲からの決めつけによって生きにくさを感じ、自分本来の力を発揮できない人もいるかもしれません。

今号では、映像作品を通じてジェンダーなどについて考えたイベント「BIG WOMAN FILM FESTIVAL (ビッグ ウーマン フィルム フェスティバル) と交流ワークショップ」の紹介と、イベントに参加したゆっパル編集委員が感じたことを紹介します。

ゆっパルの由来

この地方の方言で「結ぶ」という意味の「ゆっぱる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。『一人一人の思いが結びついて仲間をつくる』という願いが込められています。

十和田市男女共同参画市民情報誌「ゆっパル」編集委員によるコーナーです。

8月24日開催 上十三・十和田湖広域定住自立圏男女共同参画事業 BIG WOMAN FILM FESTIVAL と交流ワークショップ

このイベントは、市のアートによるまちづくりの特徴を生かしたワークショップを行うとともに、男女共同参画の意識を啓発することを目的に、市と現代美術館の共催で行われました。

当日は、市内外からのべ55人が参加し、映像作品を鑑賞すると共に、作品への感想やジェンダー観などについて、参加者同士で自由に意見交換を行いました。

BIG WOMEN (ビッグ・ウーマン) とは？

BIG WOMEN は、令和5年(2023年)にアーティスト、サラ・ルーカス主導の下、イギリスで開催されたグループ展で、40歳以上の女性たちのクリエイティブな力が集結した展覧会の一環として行われた映像作品の上映会です。ジャンルやキャリアの区別なく、ビデオアートから日々の暮らしの様子までの多様なシーンの中に、女性たちの確かな強い意志が映し出されています。

今回の上映会では、イギリスでのBIG WOMENの映像作品と併せて、「日本のBIG WOMEN」と称して、日本人女性たちによる短編映像作品も上映されました。



イベントの様子



参加者へのアンケートから考える

ジェンダーや男女共同参画社会のこと ※一部抜粋

あなたの身近な人(またはあなた自身)が、性別で困ったことなどはありましたか。結婚の予定を職場で聞かれること。(20~30代・女性) 性犯罪やハラスメントで苦しんでいる。(40~50代・女性)

「男女共同参画社会(性別にかかわらず誰もが自分らしく生きられる社会)」へのお考えなど、自由にお書きください。

さまざまな人がSNSなどで伝えられるようになってきているので、少しずつ自分らしさを出せる世界になってきているのかなと思う。(20~30代・女性)

あらゆる機会ガイドラインを伝えていく必要性を感じる。(40~50代・男性) 異なる考えを持つ人に寛容であるような雰囲気、社会にあればいいと思う。(20~30代・女性)

結婚した時に妻に名字を変えてもらった。当時は自分が名字を変える選択肢そのものが浮かばなかった。(20~30代・男性)



こういうものだ、仕方ないとふたをしたり、諦めたりする人が一人でも減ってほしい。(20~30代・男性)

相互に相手・他者を受け入れる心。(40~50代・男性)

ゆっパル編集委員も、ジェンダーに関することを考えてみました。自分自身・家族のあり方、周囲からの目線についてのモヤモヤ。ゆっパル編集委員が、日々の生活や仕事の中で感じている「モヤモヤ」した疑問や違和感について紹介します。皆さんも「ジェンダー」に関する「モヤモヤ」について考えてみませんか？

大多数が考える「男は●●」「女は●●」にモヤモヤ…

- ◆消費をあおるための言葉として「女性・男性は○○をすれば良い、○○を身につければ良い」といった表現を見つけると、「画一的な女性像や男性像」が本当に誰もが理想とする姿だろうか？はっきり決めつけなくてもいいのにと感じます。
◆「力仕事は男性」「料理は女性」といった決めつけも嫌だなあと感じます。
◆平成の中ごろ、子育て中に「男女共同参画社会」の理念を知りました。当時は「外で働くのは男の仕事」「家事や子育ては女の仕事」ということに疑問を持っていても、異を唱えることができなかった人が多かったのではないかと思います。

性別だけじゃない「▲▲は●●」にモヤモヤ…

- ◆「若い世代は○○」「男性だから○○」「現場の人は○○」といった、年齢・性別・職種などの大ざっぱなくくりで、人の言動や行動の特性を語られることに違和感があります。

選択できる自由が増えてきたと感じるけれど…

- ◆「こうありたい自分」と「今の自分」に隔たりを感じ、心の置きどころに迷います。
◆家族の子育てや家事分担の様子から、時代が変わってきていると感じます。しかし、日々あふれる情報から、自分に合った方法を探し、選択することに時間がかかっているようにも感じます。思いやりと社会的な整備がもっと進めば良いですね。

そもそも「活躍」って何だろう？

- ◆「女性活躍推進」という表現に違和感があります。性別を問わずに「活躍するかしないか」を決められたらいいのになと思います。

昔からの習慣や意識を新しく切り替えて、もっと良くしていきたい！

- ◆ジェンダーは歴史社会が作り上げてきた過去だと思えます。人の成長の可能性や、誰かの心を潰してしまわないように、誰もが軽視されることなく尊重される、新しい価値観に切り替えて生きていきたいですね。

人によっては、ここで紹介した内容以外にも「モヤモヤ」を感じているかもしれません。性別や年齢など、無意識に「○○はこうあるべきだ」と決めつけるのではなく、それぞれがその人らしく過ごせるように、お互いに思いやりを持って接していきたいですね。

◆◆ 編集後記

- 価値観が変わるには何十年もかかるでしょうが、誰もが暮らしやすい社会の実現に近づきたいと思いました。
●自分らしさに生きるって大事、けれど現実では、自分を切り捨てることがあります。性別や年齢のプライバシーには触れないでほしいです。
●自分の中の「モヤモヤ」や「はて？」を言葉にする事で、改めて日々感じていたんだなと気付かされました。
●社会は急には変わりませんが、男女が協働できるよう少しずつでも意識が変わってほしいと感じました。



編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員 岩木、岡崎、木村、杉浦、田中
発行 総務課 広報男女参画係 0176-51-6702